

小学校・道徳の内容項目の解説

勤労

●小学校学習指導要領（平成20年3月）

| 4 主として集団や社会とのかかわりに関すること | | 〔一般的な呼称例〕 |
|-------------------------|---|-----------|
| 低学年 | (2) 働くことのよさを感じて、みんなのために働く。 | 勤労 |
| 中学年 | (2) 働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働く。 | 勤労 |
| 高学年 | (4) 働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って公共のために役に立つことをする。 | 勤労・奉仕 |

●解説

| | |
|--------|--|
| 関連の説明 | 仕事に対して誇りや喜びをもち、働くことの意義を自覚し、進んで社会に役立とうとする心をもった児童を育てる内容項目である。主に、第3・4学年の4の(2)及び第5・6学年の4の(4)と深くかかわっている。 |
| 全体的な理解 | 人間として生きていくには、仕事に誇りと喜びを見だし、将来や社会に対する夢と希望、そして生きがいをもって仕事に取り組めることが大切である。働くことは、単に自分が生活していくためだけでなく、自分に課された社会的責任を果たすという意味においても重視する必要がある。そのことを通して、社会に対する奉仕や公共の役に立つ喜びをも味わうことができる。働くことの意義や役割を理解し、それを現在の自分が学んでいることとのつながりでとらえることは、将来の社会的自立に向けて勤労観や職業観をはぐくむ上でも重要なことである。 |
| 低学年 | この段階においては、みんなのために働くことを楽しく感じている児童が多い。その実態を生かし、働くことで役に立つうれしさ、やりがい、自分の成長などを感じられるようにすることが大切である。特に、学級の清掃や給食などの当番活動、家庭や地域での決められた仕事など、実際の場での意欲や態度に結び付けていくことが求められる。 |
| 中学年 | この段階においては、働くことの楽しさや喜びの体験を積むことによって、自分の役割を果たし、力を合わせて仕事をする大切さを理解できるようにするとともに、進んで働こうとする態度を育てる必要がある。特に、今の生活の中で、みんなのためにできることについて考え、仕事を見付けたり、それに参加したりして、実践に結び付けていくことができるような指導が重要になる。 |
| 高学年 | この段階においては、特に勤労を尊ぶ心を育てながら、働くことの意義を理解して社会の役に立つことができるように指導する必要がある。つまり、勤労が自分のためだけでなく、社会生活を支えるものであることを理解し、社会への奉仕活動など公共のために役立つ活動に目を向け、積極的に取り組むことができるようにすることが重要である。また、そのことから得られる喜びを基に、社会に奉仕し、公共のために役に立とうとする心構えを育てることが望まれる。 |

文部科学省「小学校学習指導要領解説・道徳編」（平成20年8月）より

■参考：中学校学習指導要領（平成20年3月）

| 4 主として集団や社会とのかかわりに関すること | | 〔一般的な呼称例〕 |
|---|--|-------------|
| (5) 勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める。 | | 勤労・奉仕・公共の福祉 |